

【議 題 4】

保健事業の一層の推進について

実施内容について

令和7年度

がん検診項目受診後の受診勧奨の実施等

- 「胸部X線検査」において要精密検査・要治療と判断されながら、医療機関への受診が確認できない者に対して受診勧奨を実施。なお、この取組については、令和6年度に保険者努力重点支援プロジェクトの中で、3支部（北海道・徳島・佐賀）において外部有識者の助言も得ながら実施中。
- 事業所に対するメンタルヘルスに関するセミナー及び出前講座の実施に係る体制を整備。

令和8年度

人間ドックに対する補助の実施

- 年齢や性別による健康課題に対する健診の選択肢の拡大と、より一層の健康意識の醸成及び実施率の向上を図るため、35歳以上の被保険者を対象に一定の項目を網羅した人間ドックに対する定額補助（25,000円）を実施。
- 円滑な制度開始及び健診実施機関の質の確保の観点から、人間ドック補助実施機関は、日本人間ドック・予防医療学会／日本病院会、日本総合健診医学会、全日本病院協会、全国労働衛生団体連合会が実施する第三者認証を取得していることを条件にするほか、特定保健指導の実施体制を有すること等を条件とする。

若年層を対象とした健診の実施

- 就業等により生活習慣が大きく変化する若年層に対して、早期に生活習慣病対策を行うことや健康意識の向上等を目的に生活習慣病予防健診に新たに20歳、25歳、30歳の被保険者も対象とする。
- 検査項目については、国の指針等を踏まえ、生活習慣病予防健診の項目から、胃・大腸がん検診の検査項目を除いたものとする。

生活習慣病予防健診の項目等の見直し

- 健康日本21（第三次）の内容等も踏まえ、40歳以上の偶数年齢の女性を対象に骨粗鬆症検診を実施する。
- 生活習慣病予防健診の検査項目や健診単価については、協会発足以来、見直しを行っていないことから、国の指針やマニュアル、人件費の高騰や診療報酬改定等を踏まえ、健診の内容及び費用について別途検証・見直しを行う。

令和9年度

被扶養者に対する健診の拡充

- 被扶養者に対する健診について、被保険者に対する見直し後の人間ドックや生活習慣病予防健診と同等の内容に拡充する。なお、現行の特定健診の枠組みは維持する。

施策実施に伴う増加額（見込）

令和7年度0.1億円程度、令和8年度280億円程度、令和9年度160億円程度

協会けんぽの健診について（制度変更後の健診体系図）

- 令和8年度から、35歳以上の被保険者を対象に人間ドックに対する費用補助を実施するほか、生活習慣病予防健診の一般健診について、新たに20歳、25歳、30歳を対象とします（胃・大腸がん検診の検査項目を除く）。
- 従来40歳から5歳刻みで一般健診に追加可能としていた付加健診について、一般健診及び付加健診の項目を統合し、新たに「節目健診」を新設します。また、40歳以上の偶数年齢の女性を対象に骨粗鬆症検診を実施します。
- 令和9年度から、被扶養者を対象とした健診について被保険者に対する見直し後の人間ドックや生活習慣病予防健診と同等の内容に拡充します。なお、制度変更後の健診体系では被保険者と被扶養者の健診内容等は同一となりますが、現行の被扶養者に対する特定健診については引き続き実施します。

健診の種類		受診対象者の年齢			
		～19歳	20～34歳	35～39歳	40～74歳
人間ドック				35歳以上の方（毎年受診可）	
生活習慣病予防健診等	節目健診				40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の方
	一般健診			35歳以上（毎年受診可）	
	一般健診（若年）		20歳、25歳、30歳の方		
	子宮頸がん検診		20歳以上の偶数年齢の女性		
	乳がん検診				40歳以上の偶数年齢の女性
	骨粗鬆症検診				40歳以上の偶数年齢の女性
	肝炎ウイルス検査		一般健診を受診する方（過去に受けた方は除く）		
特定健診					40歳以上の被扶養者

令和8年度 協会けんぽの健診について（お勤めの被保険者様）

令和8年度から、 生活習慣病予防健診等がさらに充実しました。

令和8年4月から、「人間ドック健診」のほか、生活習慣病予防健診では、「節目健診」、「一般健診」（若年）、「骨粗鬆症健診」が追加されました。

協会補助額
(1人当たり)
最高14,135円
(一般健診の場合)

生活習慣病予防健診の内容 ① 年度内にお一人様につき1回、健診費用の一部を補助します

健診の種類	検査の内容	対象者	自己負担額
一般健診	血液検査や尿検査などの一般的な検査に胃、大腸、肺のがん検診を加えた健診です。 ※35～39歳の方は、胃・大腸のがん検診を省略できます。 医師が必要と判断した場合に限り、眼底検査を併せて受診可能です。 問診の結果、50歳以上で喫煙指数(1日本数×年数)が600以上の方のうち希望者は、喀痰検査を併せて受診可能です。	35歳～74歳の方 (75歳の誕生日前日まで毎年受診可)	最高5,500円 最高80円 最高590円
子宮頸がん検診 (単独受診)	子宮の入り口(子宮頸部)の細胞を調べ、がんやその前段階の異常の早期発見を目的とした検診です。	20歳～38歳の偶数年齢の女性の方	最高990円
一般健診 (若年)	一般健診の項目から胃・大腸の検査を省略した、若年者用の健診です。	20歳、25歳、30歳の方	最高2,500円
節目健診	一般健診の検査項目に尿の詳しい検査や腹部超音波、眼底検査などを加えた、5年に1度受診できる、より詳細な健診です。	40歳、45歳、50歳、55歳、 60歳、65歳、70歳の方	最高8,280円

+ 一般健診・節目健診に追加できる健診 ① 単独受診はできません

健診の種類	検査の内容	対象者	自己負担額
骨粗鬆症 検診	問診や骨の中にあるカルシウムやマグネシウム等の成分量を測定することで、骨粗鬆症の予防と早期発見を目的とした検診です。	一般健診を受診する 40歳～74歳の偶数年齢の女性の方	最高1,390円
子宮頸がん 検診	子宮の入り口(子宮頸部)の細胞を調べ、がんやその前段階の異常の早期発見を目的とした検診です。	一般健診を受診する 36歳～74歳の偶数年齢の女性の方 ※36歳、38歳の女性は子宮頸がん検診の単独受診も可 ※20歳、30歳の女性は一般健診(若年)に追加受診も可	最高990円
乳がん検診	乳房のエックス線撮影(マンモグラフィ)で、しこりなどの異常の早期発見を目的とした検診です。	一般健診を受診する 40歳～74歳の偶数年齢の女性の方	50歳以上 最高980円 40歳～48歳 最高1,700円
肝炎ウイルス 検査	血液検査でB型肝炎とC型肝炎の感染の有無を調べる検査です。	一般健診を受診する方のうち、 過去にC型肝炎ウイルス検査を受けたことがない方	最高540円

福島県内の 生活習慣病予防健診実施機関

県北 : 23機関 県中: 19機関
いわき: 9機関 会津: 7機関
相馬 : 6機関 県南: 4機関
その他: 3機関

合計: 71機関

令和8年度 人間ドック健診実施機関について（福島支部）

人間ドック健診

検査の内容	対象者
一般健診の検査項目に血液の詳しい検査や眼圧検査、医師による健診結果の説明などを加えた、より詳しく体の状態を調べることができる、検査項目が1番多い健診です。	35歳～74歳の方 (75歳の誕生日前日まで毎年受診可)

令和8年度から
定額補助を実施
協会補助額
(1人当たり)
最高**25,000円**

福島県内の人間ドック健診実施機関(予定)

県北 : 5機関 県中: 7機関
いわき: 3機関 会津: 1機関
相馬 : 0機関 県南: 0機関

合計: 16機関

福島県内の人間ドック健診
自己負担額(予定)

約14,000円～21,000円

※年度内にお一人様につき1回、
生活習慣病予防健診 または 人間ドック健診のいずれかの健診費用の補助を
ご利用いただけます。

令和8年度 各健診の検査項目の比較

人間ドック健診では、生活習慣病予防健診より更に詳しい血液検査によって肝障害・貧血多血症・感染症など、眼底眼圧検査によって白内障・緑内障などより多くの検査を受けることができます。

検査項目			人間 ドック	節目 健診	生活習慣病 予防健診	事業者 健診	特定 健康診査	検査項目			人間 ドック	節目 健診	生活習慣病 予防健診	事業者 健診	特定 健康診査
診察等	問診		○	○	○	○	○	血液一般	赤血球数		○	○	○	■	□
	業務歴					○			白血球数		○	○	○		
	自覚症状		○	○	○	○	○		血小板数		○	○			
	他覚症状		○	○	○	○	○		末梢血液像			○			
	身体計測	身長	○	○	○	□	○		MCV		○				
	体重	○	○	○	○	○	MCH			○					
	BMI・標準体重		○	○	○	○	○		MCHC		○				
	肥満度		○						CRP		○				
	腹囲		○	○	○	■※	○		血液型 (ABO Rh)		◎				
	血圧 (収縮期/拡張期)		○	○	○	○	○		HBs抗原		○	◎	◎		
脂質	心拍数		○					腎機能	尿蛋白		○	○	○	○	○
	視力		○	○	○	○			潜血		○	○	○		
	聴力		○	○	○	○			尿沈渣顕微鏡検査		□				
	総コレステロール		○	○	○		○		血清クレアチニン (eGFR)		○	○	○	□	□
	空腹時中性脂肪		○		○	■	○	心機能	心電図		○	○	○	■	□
	随時中性脂肪			■※※	■※※	■※※	■※※		肺	胸部エックス線検査		○	○	○	○
	HDL-コレステロール		○	○	○	■	○	喀痰細胞診			□	□	□	□	
	LDL-コレステロール		○	▲	▲	▲	▲	呼吸機能	努力肺活量		○	○			
	non-HDL-コレステロール※1		○	▲	▲	▲	▲		1秒量 (対標準1秒量)		○	○			
	AST (GOT)		○	○	○	■	○		1秒率		○	○			
ALT (GPT)		○	○	○	■	○	%肺活量			○	○				
肝機能	γ-GT (γ-GTP)		○	○	○	■	○	眼底 眼圧	眼底		○	○	□		□
	ALP		○	○	○				眼圧		○				
	空腹時血糖		○	▲	▲	▲	▲		骨粗鬆症検査	骨密度			◎	◎	
	随時血糖※2			▲	▲	▲	▲			胃	胃部エックス線検査※3		○	○	○※
代謝系	HbA1c		○	▲	▲	▲	▲	大腸	腹部超音波検査		○	○			
	尿糖		○	○	○	○	○		便潜血		○	○	○※		
	尿酸		○	○	○			医師による結果説明	保健指導		○				
	総蛋白		○	○					オプション検査	上部消化管内視鏡		◎	◎	◎	
	アルブミン		○	○				乳房診察+マンモグラフィ			◎	◎	◎		
	総ビリルビン		○	○				乳房診察+乳腺超音波検査			◎				
	アミラーゼ			○				婦人科診察+子宮頸部細胞診			◎	◎	◎		
	LDH			○				PSA			◎				
血液一般	ヘマトクリット値		○	○	○		□	HCV抗体			◎	◎	◎		
血色素量 (ヘモグロビン値)		○	○	○	■		□								

- ・・・必須項目
 ○※・・・20歳、25歳、30歳は検査項目に含まない
 ◎・・・オプション項目または本人の申出により省略可の項目
 ▲・・・いずれかの項目でも可
 □・・・医師の判断に基づき実施する項目
 ■・・・35歳及び40歳以上の者については必須、それ以外の者については医師の判断に基づき選択的に実施する項目
 ■※・・・35歳及び40歳以上の者については必須、ただし妊娠中その他の者であって腹囲が内臓脂肪の蓄積を反映していないと判断された者、BMIが20未満の者及び自らが腹囲測定をし、その値を申告した者 (BMIが22未満である者に限る) については医師の判断に基づき選択的に実施する項目
 ■※※・・・やむを得ず空腹時以外に採血を行った場合、随時中性脂肪により検査を行うことを可とする
 ※1・・・中性脂肪が400mg/dl以上や食後採血の場合、LDLコレステロールの代わりにnon-HDLコレステロールにより血中脂質検査を行うことを可とする
 ※2・・・食事開始後3.5時間以上経過していること
 ※3・・・本人の希望等により胃内視鏡検査に代えることができる